

様式③

提出日 2019 年 1 月 11 日

2018 年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「池間島のミャークヅツ」

氏名:糸満柊人、我如古莉々、比嘉涼

所属学部学科：こども文化学科

I. 初めに

「ミヤークヅツ」とは1900年代頃から現在まで残されている池間島の伝統行事である。由来や行事の内容、現在の行事の状況を現地の方に話を聞いて調査した。池間島にはムトゥと呼ばれる集団が4つある。今回はそのムトゥの中の1つ、「マイヌヤームトゥ」を主に調査した。

II. 研究の目的、動機

池間島には古くから行われている伝統行事「ミヤークヅツ」というものがある。県選択無形民俗文化財にも指定されている池間島のミヤークヅツがどのようなものなのか、現在の状況はどうかを知り、沖縄県の離島である池間島に対して理解を深めるとともに、「ミヤークヅツ」を池間島出身以外の人に知ってもらいたいと思いこの研究を行った。

III. 研究方法、地域、期間

研究方法は以下の通りである。

① 文献調査

② 現地調査

宮古の池間島のムトゥ（マイヌヤームトゥ）

③ 現地聞き取り

平良新弘（82歳/男性）

研究地域:宮古島市池間島

期間:10月8日～10月10日

IV. 結果

池間島は宮古島諸島の1島で、2.83㎢からなる小さな島で、池間添と前里添の2つの集落からなる。

平成29年12月末日現在の池間島の人口は以下の通りである。

	世帯数	男	女	計
池間	161	140	108	248
前里	208	182	156	338

平成29年度版「統計みやこじま」（第13号）より

池間島にはムトゥと呼ばれる男系氏族集団が4つ存在し、池間島出身の者は必ずマジヤムトゥ・アギマスムトゥ・マイヌヤームトゥ・前里ムトゥのいずれかのムトゥに所属してい

る。

今回は主にマイヌヤームトゥについて調査を行った。

1) ミャークヅツとは

「旧暦8月か9月の最初の甲午の日から3日間にわたって行われる宮古の池間系（池間、佐良浜、西村）の人々最大の年中行事（祭り）である。」【日の出が拝める マイヌヤームトゥ 平成19年 p.1】（佐良浜と西村の両部落でこの行事が行われているのは、この両部落が池間島から分村した部落のためである）

ミャークヅツは、旧年の五穀豊穰と大漁に感謝し、次の年の子孫繁栄や豊作・豊漁を祈願することを目的としている。

ミャークヅツ当日男たちは、早朝からムトゥごとに所持しているムトゥヌヤーと呼ばれる集会所のような家に集まり、様々な儀式を行ったり、雑談や余興などを楽しんだりしている。午後になるとミジュンマ（水浜）と呼ばれる広場に出て、クイチャーの踊りを繰り広げる。というのが祭日の主な流れである。

2) ミャークヅツの由来

ミャークヅツが始まった由来はいくつか諸説あるが、その中で最も有力なのは「人頭税にまつわる」という説である。「人頭税とは、琉球王朝（首里王府）によって先島（宮古、八重山）に課された特別税で納税義務は数え15歳～50歳の男女で、男は主に粟、女は織物を納付させられていたといわれている。1637年（寛永14年）に始まり、1903年（明治36年）に廃止されている。この過酷な人頭税を納め終えたことを喜び、豊年を祝ったのがミャークヅツの始まりであるといわれている。」【日の出が拝める マイヌヤームトゥ 平成19年 p.1】

3) マイヌヤームトゥで行われるミャークヅツ

各ムトゥには、色々なしきたりがあり、それぞれそのしきたりにのっとって様々な儀式などが行われていき、それは今回調査したマイヌヤームトゥでも同じである。

ムトゥでは絶対的な年齢階級制であり、社会的地位に関わらず、最も年齢の高いものはタイショウウヤ〔大将ウヤ〕と呼ばれ、ムトゥの統率者・最高権威者となる。またここではミャークヅツに参加するウヤ（男性の年寄り）の呼称が年齢などによって4つに分類されている。

- ①ウイディウヤ〔初出年寄り〕（ミャークヅツに初めて参加する者で数え年55歳）
- ②バカウヤ〔若年寄り〕（数え年56歳～59歳の者。ウットウヤ〔弟年寄り〕とも呼ばれる）
- ③ナカウヤ〔中年寄り〕（数え年60歳～69歳の者。）
- ④ウイビトゥウヤ〔老人年寄り〕（70歳以上の者。スウジャッスウウヤ〔兄年寄り〕とも呼ばれる。）

この他に、ムトゥの運営を円滑に進めるためにサントゥイウヤ（会計）やニガイウヤ（祈願者）、書記、監査役などを置き行事は進められていく。

ミャークヅツは①アラビ（1日目）②ンナカヌヒー（2日目）③アトゥヌヒー（3日目）の3日間に亘って行われる。ヤラビマスムイと言われる子どもの健康と成長を祈願したり、表彰式があったりなど3日間で様々な儀式が行われる。またズンミ（吟味）の時間が設けられており、ここではムトゥが抱える諸問題やミャークヅツの在りかたなどについて各自意見を出し合い議論しあっている。

4) インタビューから（平良新弘／82歳、宮古島在住 マイヌヤームトゥ関係者）

- ・マイヌヤームトゥのウヤたちは午前5時ごろにムトゥヌヤーに集まり、毎年みんなで日の出を見て始めている。これは日の出が良く見える場所にムトゥヌヤーがあるマイヌヤームトゥならではの。ムトゥによっては午前3時ごろから集まるところもある。

- ・ムトゥにはそれぞれ言い伝えやルールなどが存在する。ミャークヅツに関する本もいくつかあるが、その内容は書いた人の所属するムトゥによってそれぞれ変わってくることもある。このことは「誰が間違っている」とか「どのムトゥが間違っている」というものではないので、このように誰かにミャークヅツに関して話をするのは容易でない。時にこの違いが原因でもめ事が起こることもある。

- ・ミャークヅツの時にはミルク酒というお酒を飲んでいるが、昔は違っていた。玄米みたいなものをおばあさんたちが作ってそれを飲んでいて。終戦直後配給物の中に缶詰やミルク、お酒があってそれを使って作ったのがミルク酒である。

- ・どこのムトゥもウヤの数は減ってきていると思う。しかし、参加する人は増えている。「ミャークヅツの時にしか島に帰らない」「親戚や家族が全員集まるのはこの時だけ」といった人も多くいる。また、島の人との付き合いもあるのでミャークヅツには参加するというような人もいるようだ。

V. 考察、分析、今後の展開

今回の調査では限られた範囲でしか調査できていない。まだ調査するべきところが多く残されていると考える。今後も調査を継続していきたいと考える。

VI. 終わりに

池間島では、現在まで伝えられている伝統行事ミャークヅツがある。しかし、島の人口の減少とともに行事に参加する人も減少している傾向がある。参加条件が厳しいことも原因としてあるが島から旅立ち、帰省する人が少ないことも原因として挙げられる。今後、視点を島以外に住んでいるミャークヅツの参加資格を持った人に当て、ミャークヅツに対しての意識について調べていきたい。

Ⅶ. 参考文献、調査協力

- 『日の出が拝める マイヌヤームトゥ』2007年発行（編集委員：吉浜繁、森田恒勝、仲間一郎、我那覇清治、幸地努、平良新弘、松川正規）
- 『写真で追う 池間島のミャークヅツ（島最大のイベント）』2008年発行（著者：上里武、吉浜朝栄、本村満）
- 『平成29年度版「統計みやこじま」（第13号）』
- インタビュー協力 平良新弘（82歳）宮古島市在住 マイヌヤームトゥ関係者

Ⅷ. 指導教員コメント

ひとりひとりが自覚をもってチームワーク良く調査できたと思います。

まとめ方もわかりやすく、興味がもてます。

2年生の調査およびその報告としてよくできたと評価します。この調査をきっかけに地域の様々なことに興味を持って、自ら直接調べることの楽しさをもっとしてもらえると嬉しいです。

（宮城能彦）